

最近のアメリカにおける生活科学分野の大学教育

——主として被服学関連学科と学科目について——

広 田 輝 次

New Educational Systems in the Field of "Science of Living" in American Colleges.

—Investigations in Teaching Programs Concerning Textiles and Clothing.—

TERUJI HIROTA

——序——

我国における「生活科学」に関する高等教育の歴史は浅く、戦前においては一応「家政」教育の形で行われていたが国家体制の一環として裁縫、料理など家事技能を中心としたものであった。戦後新制大学に家政学部が設置され、民主主義下での新しい進路を見出し、家庭生活の諸問題の科学的な研究と教育が行われるようになった。その後設立された家政学会は昭和45年に家政学の意義を次のように示している。『家政学は、家庭生活を中心にしてこれと緊密な関係にある社会事象に延長し、人と環境との相互作用について人的、物的の両面から研究して家庭生活の向上と共に人間開発をはかり、人類の幸福増進に貢献する実証的、実践的科学である。』

しかし、実際に日本の家政学の内容は、短期大学・四年制大学ともに種々な形態、異なる段階のものがあつた。複雑で新しい時代の要求に充分応える事ができぬものが少なくない。我々の属する大阪市立大学の学部も従来の家政学部の名称を昭和50年度より生活科学部と改めるとともに、新しい教育、研究体制を大学院に重点をおいて大巾にとり入れた。これに先立って著者は昭和49年春より4ヶ月間アメリカの主要な関係大学の現状を視察して、その特色を確かめた。

これは日本の家政学が戦後、アメリカの Home Economics の考え方を全面的に導入してその基礎の上に立って今日に至っているところが多いからでしかも、アメリカにおいて最近10年にわたりこの分野の有力大学がその教育体制を大きく変えてきており、1973年のアメリカの家政学会の調査では、学部名または学科名を Home Economics から改称したものが約10%、考慮中のものが14%となっている。すでに改名をしたものの中で新しい名称としては、Human Ecology、Human Development、

Human Development and Family Studies、Human Resource Development、Family Resources、Family and Consumer Resources、Family Consumer Sciences、Family Consumer Studies、Consumer Related Sciences、Consumer Economics、Home and Community Services、Business and Resource Management などがあげられており、名称だけでなく学問体系に大改革を行っている。これら根本的な改革を行った『先進的、な大学以外にもその名称を変更はしていないが、学問の体系が従来のホームエコノミクスの域から脱したものも少なくない。

アメリカの教育体系に我国のそれが必ずしも一致する必要はなく、むしろ西ヨーロッパあるいは社会主義国の行き方についても学ぶべきところが多いと考えられるが、我国の教育と最も密接な関係にあったアメリカの生活関連の大学の教育体制の現状を学科目から考察を試み今後の進路への指標としたい。

今回アメリカで調査を行った主なる大学は、コーネル大学、ペンシルバニア州立大学、ミシガン州立大学、カリフォルニア州立大学（デビス）、アイオワ州立大学、カンザス州立大学、コロラド州立大学、ノースカロライナ州立大学、バージニア工芸州立大学などであるが、本編においては前記大学のうち、根本的な改革を行ったと思われるコーネル、ペンシルバニア、ミシガン、カリフォルニアの四大学について述べることにする。



図-1 調査した主なる大学の所在地

- | | |
|-----------------------------------|----------------------|
| 1. Cornell University. | 6. Iowa state U. |
| 2. Pennsylvania State U. | 7. Kansas state U. |
| 3. Virginia state U. | 8. Colorado state U. |
| 4. North Carolina P.T. & state U. | 9. Calif. state U. |
| 5. Michigan state U. | |

アメリカの家政学的发展

各大学の紹介に入る前に簡単にアメリカにおける Home Economics の発展を振りかえってみることにする。

1762 年によるメイフラワー号の渡米から 1783 年の独立を経て 1862 年に連邦政府のモリル法による Land-Grant 大学 (州立大学の前身) の設立まで、女子の教育の向上が次第に強調されつゝ、あったとしてもほとんど見るべきものはなかった。Land-Grant 大学においては、職業のための自由学芸と実践的教育に主眼をおいたので、教育は Domestic Science, Domestic Economy Household Science などとして出発し、ほとんどが専門職業のためのものであった。1899 年に Domestic Science の体系化を目的としてレイクプラシッド会議 (Lake Placid Conference on Home Economics) が開催され、ここに新しく "Home Economics" の名称がとりあげられることになり、1908 年にアメリカ家政学会 (American Home Economics Association) が結成され、学問的基礎が出来たといえる。しかし、主要な教科は衣食住と育児保健など家庭生活に密着した技術的なものが中心を占めていた。1930 年代になって、アメリカは高度大衆消費時代に入り、Home Economics の専門職業化教育が一般に促進され、家族関係についての研究がさかんとなった。1940 年代に公

衆衛生、消費者保護、幼児教育、集団給食、管理などの分野がさらにこれに加わり、1950 年代になるとさらに研究活動範囲と教育の領域は拡大し、主要学科は食物、栄養、被服、住居、美学、家庭機械、家庭経営、家庭経済、児童発達学、家族関係などの分野となり、さらに細分化の方向を示した。1959 年にはアメリカ家政学会は上記のごとき細分化、専門化は、研究や教科構成のための便宜的なものであり、これら主要教科目の総合が必要で主目標を家庭生活の向上におくことを強調している。1960 年代に入るとアメリカ社会では新しい変化が生じ、都市化問題、女性の職業への一層の進出、消費経済面の重要性の増大、社会福祉の必要性、さらには環境・資源などに関する社会問題が浮び上り人間生活を近接環境および社会的連環の上で取上げる総合科学として発展させることが必要となった。これらの要望に応じてさきのべたような指導的地位にあるアメリカの主要大学の家政学部が新しい学問体系をもとめて改革を行った。これら大学、学部の概要と主要関連学科目を示すことにする。

コーネル大学ニューヨーク州立ヒューマン エコロジー学部

(College of Human Ecology)

本学部はその創立がきわめて古く、アメリカの家政学の歴史と共に歩んできたといえる。レイク・プラシッドの会議が始まった翌年1900年にニューヨーク州にあるコーネル大学は、生活科学に関する学科を農学部の中におき、これが後に家政学部へと発展した。現在この大学は文芸学部、建築学部、工学部、経営学部、栄養学部、ホテル経営学部、医学部、看護学部など私立の学部と農学部、獣医学部、産業労働学部およびヒューマンエコロジー学部の州立学部とが共存しており、学部の運営には或る程度の差があるが、総合大学として一体となってその機能を果している。上にのべたごとく家政学部としてはきわめて古い歴史を有するこの学部はさらに他の大学の学部に先んじて1969年に改革を行い、今日のヒューマンエコロジー学部となった。

エコロジー（生態学）は「生物と環境および同じ環境に生活する他の生物との関係を論ずる学問」であるが、この概念を人間に適用し、家庭よりももっと広範囲な環境の中での人間の発達と幸福の増進に貢献することを目指しており、学科構成も従来の衣、食、住、保育、家庭経営などの専門分野を対象別にえらんだものでなくて、人間生活の目的、方法に基準を置いて学問の領域をきめることにした。このため次の五つのMission（使命）を持つ領域からえらばれた。

- (1) 人間の社会的、心理的発達に寄与し、生活の改善向上をはかる領域。
- (2) 人間の生理的、健康の増進をはかる領域。
- (3) 人間に近接した環境にある物質面の改善向上をはかる領域。
- (4) 人間の経済的安寧福祉をはかり、消費者としての活動能力、資源利用を向上させる領域。
- (5) 家庭と社会の結合、すなわち地域に貢献するための質と有効性を促進させる領域。

これらの領域に対応するものとして次の5学科が構成されている。

- ① Department of Community Service Education
(社会奉仕、教育学科)
- ② Department of Consumer Economics and
Public Policy
(消費者経済と公共政策学科)
- ③ Department of Design and Environmental
Analysis
(デザインと環境分析学科)

- ④ Department of Human and Family Studies
(人間発達と家族研究学科)

- ⑤ Department of Human Nutrition and Food
(人体栄養と食物学科)

なお、これら5学科の外に学科間コースが設けられこれには、次のような教材が提供されている。

- Field Study Planning
(学外学習計画)
 - Issues Seminar: Human Ecology in the Private
Section.
(課題演習：個人分野における人間生態学)
 - Seasonal Workers: Problems and Programs.
(季節労働者：問題および計画)
 - Participation in Selected Sections of the Human
Affairs Program
(人事問題の特定部門への参加)
 - Field Experience in Problem Solving.
(問題解決の学外実演)
 - Independent Field Learning
(自主学外学習)
 - Field Learning in the Ecology of the Human Ser-
vice Network.
(人間サービス網の生態学における学外学習)
 - Field Learning in the Ecology of the Private
Section.
(私的分野の生態学における学外学習)
- 5学科の内容について述べると、

① 社会奉仕・教育学科

ここでは教育的、社会的な行動過程と諸計画（とくに日常生活の質的向上を助けるための）に対する分析を中心課題としている。人間が近接環境において示す変化の過程を解析し、効果的变化のために新しいプログラムを計画したり、その実行に参加したり人間に対する刺激を系統的に分析したりすることができる専門家を養成する。

三つの選択コースがあり、それぞれにおいて家庭科の教育、人間福祉と社会活動機関および地域計画、消費者機関での要求に応えうる学生を育成する。

② 消費者経済と公共政策学科

当学科の中心課題は、社会における消費者の福祉であって、研究、教育、公共サービスについてのプログラムは物質的な消費だけでなく、人的問題についても重要であることを示している。社会科学の各分野の教授陣は社会、経済政策が消費者行動と人間の福祉にどのような影響を示すかを明らかにする。

本学科は学部の段階で三つの選択コース、消費者経済

学、住宅、および公共政策を提供する。

③ デザインと環境分析学科

ここでは我々の近接環境の物理面での創造と調節に関して各個人より出発し、「皮ふから壁まで、さらにそれをこえて」広がる近接環境にあって、空間、物質、目的によって影響をうける各個人と家族の要求に焦点を集めている。

この学科は自然科学、社会科学、人文科学の三つの分野から化学、物理学、心理学、社会学、経済学、建築学、美学、デザインなどの教科によって構成されているので多様性とともなそれらの相互作用による効果が期待されている。

デザイン、自然科学、社会科学にそれぞれ選択科目があり、学生はそれらで基礎的な重要知識を得て人間環境のデザインの解決に必要な能力を養うことになる。

④ 人間発達と家族研究学科

人間発達と家族研究のための教育、訓練、研究を行う。そのために講義、討論、研究、実験室での観察、学外実習、自主的な研究などバラエティーに富む課程がある。たとえば、認識の発達、言語と学習、社会と人間発達、伝統的かつ近代的な形態の家族、幼児・児童・青年および成人、さらには家庭外の人間発達のための諸機関（例えば託児所、保育園）の考察などである。学科の専攻者は学士課程ならば研究技術者、精神衛生のためのアシスタント、青年カウンセラーなどの職業につくことができ、保育園、幼稚園の先生の資格を得ることができる。

⑤ 人間栄養と食物学科

専攻課程に関連する領域は次のようである。

- (1) 人間栄養とくにライフサイクルの諸段階と種々な生理的、環境条件のもとでの個人の健康と栄養との相互関係を重点をおいたものである。
- (2) 食品科学すなわち食品の選択、加工、保存、貯蔵、利用に関するものである。
- (3) 栄養学一個人と集団の栄養管理のために必要な栄養科学、食品科学、経営学の応用に重点をおいている。

卒業生は年令、経済水準の異なるすべての人間の健康と栄養のプログラムの系統的な作製、調整、評価などに重要な役割を果たすことができる。

これらの5学科のうち本報告においては被服に関連しているデザインと環境分析学科を中心として、教科内容についてのべることにする。

デザインと環境分析学科の学科目

三つの分野にわたり次のコースがある。

デザインコース The Design Option

被服材料コース The Materials-Textiles Option

人間と社会的要因コース The Human and Social Factors Option

デザインコースは対象物のデザイン、その関連事項および対象物が用いられる空間に興味のある学生のために、材料、人工的環境のデザインのための人間の要求についての新しい知識と応用を教えている。

産業デザイン、衣服デザイン、室内デザイン、住居デザイン、その他デザイン関係の分野の職業につくことができる。

被服材料コースは、繊維その他の材料の化学的、物理的性質の研究や近接環境についてのこれら材料の利用に対して機能的、美的な考察を行う。消費者報告、計画、販売、科学研究、生産者のためのデータ分析、教育の分野における専門家の養成を行っている。

人間と社会要因のコースは現在および計画の環境の分析を行い、我々が近接環境の人工的な部面をどのように形成するか、逆にそれらによっていかに影響をうけるかを知るために、物理学的、社会的および心理学的要素の相互作用を学ぶ。これによってつくことのできる職種はデザイナー、建築家、室内設計者その他環境分析に関係する新しい分野での仕事である。たとえば、リハビリテーション、子供、病人、老人のための環境の創造および消費者と生産者の連繋のための活動メンバーなどのような政府機関の仕事である。

以上三つのコースはいずれも創造力、芸術的判断、分析思考、問題解決能力などを発達させるように計画されている。たとえば次のような課題を設定して、美的、機能的、経済的な条件について学ぶことになっている。

- ・限定空間におけるデザイン
- ・衣服・家具、設備の材料の選択
- ・作業、レクリエーションにおける清潔、快適、静かさの維持
- ・家屋の汚れ防止
- ・色・光、材質の関係
- ・空間と心理的・機能的条件の視覚的關係

この学科で提供される専門科目は表-1のようである。

表-1 関係学 科 目

<p>デザイン領域</p> <p>Work shops in Elementary Clothing Construction (基礎的被服構成演習)</p> <p>Design Fundamentals I (基礎デザイン I)</p> <p>Design Fundamentals II (基礎デザイン II)</p> <p>Design III : Form, Structure and Space (デザイン III : 形体, 構造, 空間)</p> <p>Design IV : Design Procedures (デザイン IV : デザイン過程)</p> <p>Theory of Design (デザイン理論)</p> <p>Drawing (製図)</p> <p>Design Drawing (デザイン製図)</p> <p>Drawing the Clothed Figure (着用体の描写)</p> <p>Apparel Design I (服装デザイン I)</p> <p>Apparel Design II : Problems in Apparel Design (服装デザイン II : 服装デザインにおける問題点)</p> <p>Apparel Design III : Design Approaches (服装デザイン III : デザインアプローチ)</p> <p>Apparel Design IV : Theory of Functional Clothing (服装デザイン IV : 機能的被服理論)</p> <p>Apparel Design V : Product Development and Presentation (服装デザイン V : 製品開発と紹介)</p> <p>Hestoric Design I : Furniture and Interior Design (歴史的デザイン : 現代のデザイン)</p> <p>Fundamentals of Interior Design for Nonmajors (専攻者のための基礎室内デザイン)</p> <p>Desin : Weaving (デザイン : 織り物)</p> <p>Design : Introductory Textile Printing (デザイン : 紹介的織物プリント)</p> <p>Intermediate Textile Design : Silk Screen Printing (高等テキスタイルデザイン : シルクスクリーン捺染)</p> <p>Graphic Design (グラフィックデザイン)</p> <p>Residential Design (住宅デザイン)</p> <p>Interior Space Planning I, II, III, (室内空間プランニング I, II, III)</p> <p>Form Study : Clay (形体学習 : 粘土)</p> <p>History of Costume (服装史)</p> <p>Product Design I, II, (製造デザイン I, II)</p>	<p>Environmental Analysis : Person, Activity, Space. (環境分析 : 人体, 活動, 空間)</p> <p>Environmental Psychology : Perspectives and Methods (環境心理学 : 眺望と方法)</p> <p>Design Methods : Planning Strategies (デザイン方法 : 設計技術)</p> <p>Science for Consumer (消費者のための科学)</p> <p>Textile Materials : Characterization and Properties (繊維材料 : 繊維構造と性能)</p> <p>Alternate Learning Environments (環境の交互学習)</p> <p>Household Equipment Principles (家庭管理理論)</p> <p>Residential Environments : The Behavioral Basic for Design Decisions (住居環境 : デザイン決定のための行動理論)</p> <p>Consumer Behavior (消費者行動)</p> <p>The Textile and Apparel Industries (繊維・服装産業)</p> <p>Textile Chemistry (繊維化学)</p> <p>Textile in Fashion and Function (流行と機能に関する繊維製品)</p> <p>Psychology of the Near Environment (近接環境の心理学)</p> <p>Social Psychology of the Near Environment (近接環境の社会心理学者)</p> <p>Research Practicum in Environmental Psychology (環境心理学の研究方法)</p> <p>-Activity-Environment Relationships (人体-活動-環境の関係)</p> <p>Instrumental Analysis (機械分析)</p> <p>Physical Science in the Home (家庭における自然科学)</p> <p>Advanced Textile Chemistry (高等繊維化学)</p> <p>Textile in the Near Environment (近接環境における繊維製品)</p>
<p>環境分析領域</p> <p>Textile Materials (繊維材料)</p> <p>Materials (材料)</p> <p>Environmental Analysis : Human and Social Factors (環境分析 : 人間と社会的要素)</p>	<p>共通領域</p> <p>Special Studies for Undergraduates (学部生のための特別研究)</p> <p>Junior Honors Seminar (三年生のオーナースセミナー)</p> <p>Special Problems for Graduate Students (大学院生のための特別問題)</p> <p>Honors Research Practicum (オーナースリサーチ実習)</p> <p>Masters Thesis and Research (修士論文と研究)</p>

学科の特徴

この学科の学科目構成は人間と物理的環境およびこの両者の関係をシステムとして取扱う三つの専攻のうち、デザイン専攻においては環境のデザインに対する人間の諸要求をこれに用いる材料のいろいろな特性を考慮に入れながら、生態学的方法に基づいて行うようにされている。

繊維材料専攻では物理的環境の重要な構成成分としての材料について、自然科学的な立場から研究、教育を行うようになっている。

人間と社会要因の専攻では物理的環境と人間の相互関係を社会科学的に追究することを目指している。

この学科の専攻科目は全部で77あり、うちデザイン領域のものが32、環境分析領域のものが37、残りが共通科目である。

デザイン領域については各種デザインについてそれぞれ教科を設けて、各専門のデザインの養成を考慮している。基礎デザインⅠ～Ⅲはデザインの一般的、基礎的学習、服装デザインⅠ～Ⅴはとくにドレーピングとパターンの学習に重点をおいた服装全般、またデザイン史Ⅰ～Ⅲは原始から現代にいたる家具と室内のデザインの変遷など基礎的、理論的なものから、テキスタイルデザインⅠ、Ⅱはシルクスクリーンプリントが主な学習の対象となっており、他にもグラフィックデザイン、住宅デザイン、プロダクトデザイン、室内空間設計Ⅰ～Ⅲなど実験的なもので、きわめて広範囲にわたる教育が行われている。

一方、環境分析領域では、まず人間と物理的環境についての社会学的、心理学的分析を行うために次のような独自の教科目が設けられているのが特色といえる。

環境分析学、環境心理学、近接環境の心理学、近接環境の社会心理学、人間一活動一環境関係学、環境認識学などである。

本学科は空間的領域としては住居と被服が主になっており、被服関連学科と見ることができ、単に従来より領域を上げたというのではなくて全く新しい立場より、人間と物理的環境の相互関係の分析に重点をおいて構成されているところに特色があり、アメリカの他の大学のそれと比較してもきわめてユニークな学科といえることができる。しかし、デザインと分析の二つをどのようにむすびつけていくかは今後の重要な課題であると考えられる。

ペンシルバニア州立大学人間発達学部 (College of Human Development)

この大学はこの外に文芸、農学、経営学、理学、教育、工学、体育などの学部を有する有力な総合大学であるが、その中に従来あった家政学部は1966年に現在の学部名に改称するとともに研究、教育の面において大改革を行い、アメリカの家政学の新しい方向への出発の先駆をなした。

改革の目標としては人間開発にある。しかし、単なる能力開発に止まるのではなくて、生物学的、心理学的、社会学的に広い視野に立つて行うことを意味している。言い換えれば、自然科学、社会科学の分野における基礎学問を駆使して人間生活を向上させるために、主として人間能力を拡張させることを目標としているといえる。

具体的には、子供の発達、青年、老人問題と家族関係の改善、社会開発、健康管理、精神衛生、消費者問題、施設の管理、都市と地方のシステム計画などを人間と環境の関係の向上のための方法を開発することである。

学部は、次の4学科を有しその中に専攻が含まれている。

表-2 学科と専攻課程

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------|
| ① Division of Biological Health
(生物学的保健学科) |
| A. Major in Biological Health
(生物学的保健学専攻課程) |
| a. option in Health Planning and Administration
(保健計画と管理学選択コース) |
| b. option in Nutrition
(栄養学選択コース) |
| B. Major in Nursing
(看護学専門課程) |
| ② Division of Community Development
(社会開発学科) |
| A. Major in Community Development
(社会開発学専攻課程) |
| B. Major in Law Enforcement and Correction
(法の施行および補正学専攻課程) |
| ③ Division of Individual and Family Studies
(個人および家族研究学科) |
| A. Major in Individual and Family Studies
(個人および家族研究学専攻課程) |
| a. option in Individual Development
(個人発達学選択コース) |
| b. option in Family Studies
(家庭研究学選択コース) |
| ④ Division of Man-Environment Relations
(人間一環境関係学科) |
| A. Major in Man-Environment Relations
(人間一環境関係学専攻課程) |
| B. Major in Food Service and Housing Administration
(食品サービスおよび住宅管理学専攻課程) |

これら4学科の概要をのべる。

1. 生物学的保健学科

保健上のサービスを計画、問題の解決に必要な専門家を養成する。そのために正しい生物学的立場より環境に対する認識を持つよう基礎的、応用的研究を通して学生を教育する。

栄養学選択コース・個人と集団の栄養状態を改善するため、集団栄養学 (Community Nutrition) と医療食品学 (Medical Dietetics) のいずれかを専門として学ぶ。

保健計画と管理学選択コース・人間発達と人間サービスシステムへの理解を与え、各種サービスの計画、調節、評価するための方法、技術について学ぶ。

看護学専攻課程

健康管理、治療のための看護の実際的な訓練を与える。学士修得者は公認看護婦試験を受験する資格が与えられる。

2. 社会開発学科

社会機構の継続的調査、社会改善、社会的なサービス活動に重点をおいて教育が行われる。

社会開発学専攻課程

社会のシステム分析、計画と計画の評価。各種問題の評定、分析と解決、社会変化、などについて社会科学的基礎にそって学外の諸機関での実習を通じて研究と職業訓練を行う。

3. 個人および家族研究学科

個人と家族の問題についての分析、解決のための個人的相談、個人と家族の発達を促進するプログラムの計画、公的なサービスシステムの研究などを目的として、次の2の選択コースを提供している。

1). 個人発達学選択コース

2). 家族研究学選択コース

4. 人間-環境関係学科

人間発達に対する人工的環境の影響、個人及び集団の生活目標を進めるための環境の整備と管理、環境の諸問題と技術に関するもので、専攻は次のように分れる。

(1) 人間-環境関係学専攻

人間行動と社会構造に対する人工的環境の影響、個人及び集団の要求を維持するための物的なシステムの組織と利用に必要な技術に重点をおいている。これらは人工的な環境の計画や維持のための基礎となるもので、被服など個人的空間から住宅などのシステムに及ぶ各段階の関係を明らかにすることを目的としている。次に示す四つの分野の一つを選択することになっている。

I) 都市及び地方の環境プラン、II) 環境計画と管理、III) 被服研究、IV) 環境-行動の科学

(2) 食品サービスと住宅管理学専攻

食品サービスと住宅産業における専門家養成を重視している。人間発達のための基礎知識とともに施設の管理、行政に必要なことがらを与える。このため、二つの重点コース、管理栄養学とサービス管理学が設けられている。

これらのうち、被服学に最も関係の深い人間-環境関係学専攻の専門科目を示すと次表のようである。

表-3 人間-環境関係の専門科目

Introduction to Man-Environment Relations (人間関係環境概論)
Issues in Man-Environment Relations (人間-環境関係の課題)
Costume, Culture, and Fashion (服装、文化、流行)
Fantcional Clothing Design (機能的被服デザイン)
Historic Development of Textiles (テキスタイルの歴史的発達)
Principles of Clothing I (被服理論I)
Principles of Clothing II (被服理論II)
Clothing Construction (被服構成)
Introduction to Housing (住宅概論)
Elementary Textiles (初等テキスタイル)
Behavioral Aspects of Man-Environment Relations I・II (人間と環境関係の動的考察I・II)
Analytic Methods in Man-Environment Relations I・II (人間-環境関係の分析法I・II)
Man-Environment Relations Laboratory I II III (人間-環境関係の実験I II III)
Problems in Man-Environment Relations (人間-環境関係の問題点)
Intermediate Textiles (中世のテキスタイル)
Dimensions of Clothing Behavior (被服行動の範囲)
Western Costume Development from the Renaissance to the Present (ルネッサンス期から現代までの西洋服装史)
Housing Space Related to Living Patterns (生活形態と関連した住居空間)
Housing Problems and Policies (住宅問題と政策)

これらの学科目を通して人間-環境関係学の特徴を見ると、従来これらの分野の研究あるいは教育は、人間の側と環境の側と別々に行われてきていたが、両者の関係に焦点をしばりその間の法則や原理を追究し、人間環境の改善、創造に役立たせることを目標としている。

資源、公害、生活様式の変化など多様、複雑な問題を多く抱えている今日、時代の要請に応えた方向をこの分野に求めていることがわかる。なお、本学科は内容的に分類すると人間-環境関係の課題、動的考察、分析法、実験と実習などに分れるが、分析的な学習、問題解明の学習などに重点をおいていることが特色といえる。

ミシガン州立大学 ヒューマンエコロジー学部
(College of Human Ecology)

この大学は文芸学部、農学部、経営学部、公共福祉学部、コミュニケーション学部、教育学部、工学部、獣医学部など総合大学として大きい組織を持っているが、ヒューマンエコロジー学部はこの中でも最も古い学部の一つであり、家政学部の名称を1970年に現在の名称に改めるとともに学部構成に大改革を行った。その名称に示されるように生態学的に人間生活をとらえようとするもので、個人と家族間の関係と環境の維持のためのプログラムをとりあげている。教育、研究、サービスを通じて家族の生活の質を改善することに役立つことを学部の目標としている。

本学部は次の四つの学科より構成されている。

表-4 ミシガン大学、学科と専攻

- | |
|---------------------------------------------------------------|
| ① Department of Family and Child Sciences
(家族と児童科学科) |
| A. Child Development and Teaching major
(児童発達と教育学専攻課程) |
| ② Department of Family Ecology
(家族生態学科) |
| A. Home Economics with Communication major
(情報と家政学科) |
| B. Community Services major
(コミュニティサービス専攻課程) |
| C. Home Economics Education major
(家庭科教育学専攻課程) |
| D. General Home Economics major
(一般家政学専攻課程) |
| ③ Department of Food Science and Human
(食品科学と人体栄養学科) |
| Food Science |
| Human Nutrition and Foods |
| A. Dietetics major
(栄養学専攻課程) |
| B. Food major
(研究専攻課程) |
| C. Research major
(研究専攻課程) |
| ④ Department of Human Environment and Design
(人間関係とデザイン学科) |
| A. Clothing and Textiles major
(被服学専攻課程) |
| B. Retailing of Clothing and Textiles major
(被服販売学専攻課程) |
| C. Human Environment major
(人間環境とデザイン学専攻課程) |
| D. Interior Design major
(室内デザイン専攻課程) |

これら四学科の教育の概要を示すと、

1. 家族と児童科学科

胎児期より青年期まで個人の発達とこれに対する教育に関するものと家庭の構造と機能の理解に関係する分野が含まれる。

2. 家族生態学科

人と家族とその近接環境の相互関係が満たされるため、生態系としての家族の研究と環境の理解をはかる一般的、専門的教育を行う。

3. 食品科学および人体栄養学科

食品科学分野

化学、生物、生化学、栄養学、数学、物理学、工学などの食品への応用で、食品加工施設の運営のための人材を養成することに重点をおいている。

栄養と食品の分野

人体機能に対する基礎的生活維持システムを明らかにする。基礎科学の健康増進への応用とともに、健康と成長の社会心理学的関係について追究することも強調されている。

4. 人間環境とデザイン学科

近接環境の人工的な側面、環境の中の人間生活の相互依存と相関性、近接環境の中の資源の利用に重点をおいて、教育によって被服の生産と販売、住居と室内デザインの分野の専門的訓練を行っている。この中に、四つの専攻を設けている。

被服学専攻

自然科学、社会科学、美学の三つの分野のいずれかに重点をおいて自由に学習のプログラムを組むことができる。ビジネス、情報、研究、社会サービスでの活動のための準備がなされる。

被服販売学専攻

ファッション部門での販売と宣伝の地位を得るために必要な専門科目が提供されている。広報、販売促進、消費者教育、ファッション関係の職業教育もなされる。

人間環境とデザイン専攻

家族とその近接環境の相互関係の解明のための生態学的研究を行い、人間の物理環境である被服、住居を中心としてデザインと商品化、人間生活との関連などをしらべる。

室内デザイン専攻

近接環境として室内のデザインを計画、設計、実際的方法などについてしらべる。

これらの各学科の教科目のうち、とくに人間環境とデザイン学科のプログラムを示すと次のようである。

表-5 人間環境とデザイン学科の学科目

Design for Living 1, 2
(生活のためのデザイン1, 2)
Principles of Clothing Constuction (被服構成理論)
Textiles for Consumers (消費者のための繊維製品)
Contemporary Retail Community (現代販売組織)
Selected Non Textile and Apparel Merchandise
(特定メンテキスタイル及び服装販売)
Environment Design : Space, color and Textile
(環境デザイン: 空間, 色彩, 素材)
Environmental Design : Space, Color and Texture-
Laboratory (環境デザイン: 空間・色彩, 素材-実験)
Synthesis of Environmental Design Elements
(環境デザイン要素の総合)
Synthesis of Environmental Design Elements-
Laboratory (上記実験)
Interior Space Design (室内空間デザイン)
Interior Color and Texture Design
(室内の色彩と素材のデザイン)
Basic Interior Design Synthesis
(基礎的インテリアデザイン総合)
History of Interior Design : Ancient to Medieual
(室内デザイン史: 古代~中世)
Experimental Clothing Constuction (被服構成演習)
Contemporary Fasion Analysis
(現代ファッション分析)
Servey of World Dress (世界の服装の概観)
Merchandising : Apparal and Home Furnishing
Accessories (服装及び家具調度の商品)
Clothing and Textiles Production and Distribution
(被服製品の生産と流通)
Interior Design Material and Workroom Practices
(室内デザイン材料と実演)
Interior Lighting Design (室内照明デザイン)
Interior Perspective and Media
(室内透視図とメディア)
Interior Design Problems (室内デザインの問題点)
History of Interior Design : Medieval to Rococo
(室内デザインの歴史: 中世~ロココ)
Human Needs in Housing
(住居における人間要求)
Design Illus tration (デザインイラストレーション)
Design Analysis (デザイン分析)
Textile Design (テキスタイルデザイン)
Field Study in Family Housing (家屋における野外学習)
Design by Draping (ドレーピングによるデザイン)
Speeial Problems in Clothing
(被服における特殊問題)
Textiles within Ealagical Framework
(生態学的概念における繊維製品)
Textiles Ecomonics (繊維製品の経済学)
History of Apparel Textiles (染織史)
Clothing and Textiles in World Trade
(世界貿易における被服と製品)
History of Costume : Western Dress
(服装史: 西洋の服装)
Problems in Human Environment and Design
(人間環境とデザインにおける問題点)
Field Study (学外学習)
Craft : Design with Meaterials
(工芸: マテリアルによるデザイン)
Advanced Textiles (高等テキスタイル)
Textiles Laboratory (テキスタイル実験)
Weaving (織物)

Field Study : Retail Operations
(校外実習: 小売機関)
Special Problems in Retailing Field Work
(販売実習における特殊問題)
Exploration of the Textile and Apparel Industries
(繊維: 服装産業踏査)
Professional Practices-Interior Design
(室内デザインの職業的訓練)
Interior Design-Contract
(室内デザイナー契約)
Interior Design-Residential
(室内デザイン住宅)
Three Dimensional Slructure and Construction
(三次元構造と組織)
Aduanced Design Problems
(高等デザイン問題)
History of Interior Design-Rococo through Victoria
(室内意匠史-ロココ~ビクトリア)
History of Interior Design-Modern
(室内意匠史-近代)
Man and His Shelter (人間とすまい)
Culture, Society and Dress
(文化, 社会, 服装)
Psychology of Clothing (被服心理学)

なお、生態学的な考え方をすすめるための中心科目として、次のようなものがある。

Man in his near environment 近接環境における人間

Management and design making in the family 家庭における経営と設計

Contemporary issues in human ecology 人間生態学の現代的課題

被服学の中心科目としては、生活のためのデザイン、消費者のための繊維製品、現代ファッション分析の三つをあげることができる。

着用者または消費者の立場よりの被服の研究を重視している。

この他、住居における人間要求、人間とすまい、被服心理学、生態学的概念のテキスタイルなども生態学的研究・教育の方向を示す重要な学科目といえる。被服、住居に対する現状あるいは歴史的分析を試みる科目として、インテリアデザインの歴史、現代ファッション分析、世界の服装の概観などが多いことも特色といえる。学科目を概観すると自然科学系のものより社会、人文科学系のものが多いことがいえる。また、実際の教科や実習などが数多く広範囲にわたって提供されていることも注目すべきところである。

カリフォルニア州立大学農学環境科学部
(College of Agricultural and Environmental
Science)

カルフォルニア州立大学では、生活科学あるいは家政学に関する学部が独立して設置されていないで、農学環境科学部の中に含まれている。学部も主要学部のあるバークレイより離れてサクラメントの近くのデビスにある。

家政学の発展の歴史のところでのべたようにこの学部の家政学のほとんどが初めは農学部の一構成として出発し、後に独立しているものが多いが本学部はこの初めの頃の構成を形式的にはそのままに残しているといえる。しかし、現在この農学部は食物、繊維など天然の生活物質の生産だけでなく、はるかに広範囲なものを学問分野に含むことを目指している。その領域を人間行動を主体として人と人を取りまく自然環境、物理的環境の相互作用について考え、人間と家族および共同体への自然科学、社会科学的な適応をはかる環境科学としてとらえている。

その範囲は土地から農場、家庭はもとより都市に及んでいる。教育目的は、資源管理、耕作と牧畜経営、商業活動、教育、資源保護と改造について家庭との共同体として、生物学的、物理学的、社会科学的に適応させることにある。また、技術的発達と同様に社会問題が重要な課題とされている。最終目的は技術にあるのではなくて、技術によって人間の問題を如何に発展させるかを考えている。このような点で本学部の教育は、生活科学或いは家政学を独立させずに農学と結合させたままで行っている点、一つの新しい方向を示しているといえる。

学科の構成

学部は次の5つの分野、Divisionに分けられ、40以上のコースから構成されている。

これらは表-6に示す。

これらの各専攻のうち、生活科学あるいは従来の家政学に関連あるものについての教科内容の概要を示すと次のようである。

家政学専攻課程

人文科学、生物学、物理学、社会科学の専門科目の学習を通じて職業人としてのホームエコノミストを養成するための基礎科目を提供している。プログラムは、小児の発達、食品、栄養、被服の基礎理論と家族関係消費科学についての広い分野が含まれる。

被服学専攻課程

被服についての化学的、物理的性質とこれらの利用、繊維製品の取扱ひ方、デザイン及び経済面に関連したことがらを2つのコースに分かれて教育する。Consumer Textilesは、被服の社会科学面を強調し、Textile Sci-

enceは被服材料に関連した科学的理論面に重点をおいている。

小児の発達学専攻課程

知能のおくれた小児、身体障害児を含む一般小児について観察を行い、それらの子供とその家族、さらに共同体の相互関係について学習する。

デザイン専攻課程

テキスタイル、被服、グラフィック、インテリアとそれらの環境関係に重きを置いている。

学科目の詳細については本報告では省略する。

表-6 学部のDivisionとコース

① Division of Agriculture Science (農業科学科)
A. Agricultural Economics and Behavioral Science (農業経済と行動科学専攻課程)
B. Major in Agricultural Education (農業教文専攻課程)
C. Major in Applied Behavioral Science (応用行動科学専攻課程)
D. Major in Child Development (子供の発達学専攻課程)
E. Major in Design (デザイン専攻課程)
F. Major in Development, Resource, Consumer Economics (発達、資源、消費者経済学専攻課程)
主なるコース
Agrarian Studies
Agricultural Economics and Business management
Agricultural Education
The Agricultural Science and Management
Applied Behavioral Science
Atmospheric Science
Avian Science
Biochemistry
Biological Sciences
Child Development
The Community Nutrition
Consumer Food Science
The Crop Protection
Design
Development, Resource and Consumer Economics
Dietetics
Entomology
The Environmental Planning and Management
The Fermentation Science
Food Biochemistry
Food Science
Food Service Management
The Genetics
The Home Economics
The International Agricultural Development
The Nutrition Science
The Physiology
The Plant Science
Preferertry
Preventerinary Medicine
Range and Wild and Science
The Renewable Natural Resources
Soil and Water Science
The Textiles
The Wild life and Fisheries Biology

総 括

1. アメリカの生活科学において、被服に関係する分野がどのような位置を占めているかを調べるために1974年アメリカの大学を訪ねて調査を行った。その中、有力な四大学の学部、コーネル大学およびミシガン州立大学のHuman Ecology 学部、ペンシルベニア州立大学のHuman Development 学部およびカルフォルニア州立大学の農学および環境科学部において、学部の組織と被服に関連する学科および学科目がどのようなものであるかについて報告した。
2. 上記調査の結果、明らかにされたことは次のようである。
 - (a) 学科の構成は従来の家政学部におけるように衣、食、住といった研究あるいは教育対象別にその分野を分けずに、生活向上の目的あるいはそのための方法などによって行っている。
 - (b) 被服学は単独に学問の分野を新しい学科組織の中にとることはなく、多くは住居学と共に近接環境科学として、自然科学、社会科学にまたがる形をとっている。
 - (c) したがって、新しい学科の組織において、被服に関連する学科目は、近接環境科学、デザイン、社会科学などの分野を含むことになり、その種類は非常に増えている。このように拡散した多くの科目を一つの焦点に集中させることは、容易でないと考えられる。
 - (d) 各学科目の境界領域の学科目が数多くあるために各学科が互に連けいを持つことができるようになっており、総合科学としての生活科学の教育にとって重要なことであると思われる。
3. アメリカにおける新しい生活科学は出発して日も浅く、多くの問題点をかかえているがそのあり方については見るべきものが多く、その発展が期待される。

謝 辞

この調査にあたり多くの便宜を与えられたコーネル大学ヒューマンエコロジー学部長、Prof. David C. Knapp, デザイン環境分析学科長、Prof. Joseph Carreio および Prof. V. White さらに調査資料の全般的な翻訳と整理にあたった坂口文代、鳥谷ふみ両君、図表等の作製に協力された千賀武男技術員に対し謝意を表わします。

参 考 文 献

- American Universities and Colleges: American Council on Education (1973)
- 佐渡谷重信: アメリカ大学総覧研究社 (1965)
- 松島千代野: 家政学原論集成 (1974)
- Cornell University: New York State College of Human Ecology Course Description (1974~5)
- Cornell University: New York State College of Human Ecology.
- Pennsylvania State Univ: The Pennsylvania State University Bulletin.
- Michigan State Univ: The Michigan State Univ. Catalog.
- California State Univ: The California State Univ Catalog.
- Bishop MA: History of Cornell (1962) Cornell Univ. Press.
- Michigan State Univ: The Lifelong University. A Report to the President. (1973)
- Home Economics Units in Higher Education. A Decade of Change: Journal of Home Economics. May (1974)
- Michigan State Univ: From Home Economics to Human Ecology.

Summary

1. I made researches in the departments of textiles and clothing to investigate what position they occupy in each of the four leading Colleges, College of Human Ecology in Cornell university, Michigan state university, College of Human Development in Pennsylvania state Univessity and College of Agricultural & Environmental Science. I visited them in 1974 paying attention to the following three aspects, the structure of colleges, departments relating to textiles and clothing and their curriculums.
2. As a result the following facts have been made clear:
 - (a) The structure of departments was based not on differentiated objects such as clothing, food, housing, etc. but on the purposes and methods to improve living.
 - (b) The new departments relating to textiles and clothing cover the two fields of natural science and social science as part of near-environment, together with the science of housing.
 - (c) The curriculum concerning textiles and clothing now include the science of near-environment, design and social sciences. They have a great deal of variety. Therefore it seems difficult to concentrate the scattered subjects.
 - (d) Since there is a large number of inter-departmental curriculums, the corelation of departments are being promoted.
3. The new "sciences of living" in the United States are still developing with problems yet to be solved though with much expectation.